



村井 慶太郎 議員

**問** 「浮きこぼれ」※問題解決のため、飛び級はできないのか。

**答** 義務教育においては、学校教育法により飛び級制度の導入はできない。優秀な児童生徒に対しては習熟度に応じた課題や学習活動の場を作っていく。

※「浮きこぼれ」とは、学校において高い学力や能力を持つ児童生徒が授業内容に物足りなさや疎外感をもつ状態。

**問** 授業についていけない児童への学習支援の考えは。

**答** 学力格差を解消するために、学級を複数教員で指導するティームティーチングや少人数指導の授業を取り入れている。今後、GIGAスクール構想の推進は学力の格差解消

の手段になると考えている。そこで、これまでの学校での実践とICTとを組み合わせながら、最適な学びを進める。また、教員OB、大学生による授業支援や学習相談を実施できないか研究していく。

**問** デジタル教科書を導入する考えは。

**答** 町でもデジタル教科書の実証事業を行っている。「画面が小さい」などの課題や国の動向を見ながら対応を検討していきたい。なお、教科書の持ち運びによる負担軽減にも弾力的に対応できるよう学校に指導していく。



タブレット学習もスーイスイ♪

**意見** 本町の「教育の町」宣言にふさわしい、誇れる独自の取組を期待する。



住田 英次 議員

**問** ホッケー場の人工芝による環境への影響は。

**答** 海洋へのプラスチックごみの流出が深刻化し、海の生態系を壊す原因となるなど対策は急務である。本町のホッケー場は供用開始から年数も浅く、状態も良いため、人工芝の破片の流出量は今のところ少ないと考えている。しかし、今後は環境問題への配慮が必要であると考え、流出を防ぐための対策を講じていきたい。



ホッケー場（人工芝競技場）

**問** 町内の中小河川の維持管理について、①台帳などの整備状況は。②川の草や泥の除去への対応方法は。③地域住民やボランティアに川の管理を委託する『アドプト制度』の活用のか考えは。

**答** ①河川管理者は河川法により河川現況台帳を調整・保管することとされているが調整できていない。早急に取り組みたい。

②河川の見回りは定期的に監視を行い、出水期前後の河川パトロールで状況把握に努めている。流れを阻害する樹木や堆積土砂を発見した場合は、河床掘削工事等を必要に応じて実施している。

また、近年の豪雨による水害リスクの増大に備え、昨年12月に『中予圏域治水対策連携強化プロジェクト』を策定し、流域内の関係者が多様な対策を講じ、浸水被害の軽減を図ることとしている。

③『アドプト制度』は経費の削減や地域住民の意識向上につながる。しかし、本町の河川では土の堤防が無く、除草する区間も短いためなじまないと考える。